

# 国際化を問う

## グローバル化の諸問題

産経新聞社主催のフォーラム「二十一世紀グローバル社会をイメーシする」共同討議のテーマは「グローバル化の諸問題」改めて日本人の「国際化」を問う。大阪大学人間科学部教授の青木保氏を議長に、九人の討論者が、湾岸戦争後の日米関係や国際情勢を検証し、たうで、南北問題や国連において日本の果たすべき役割などをめぐって話し合った。

### FORUM'91

### 出席者

(50音順、敬称略)

- 議長 青木 保 (大阪大学人間科学部教授)
- 討論者 千本 倅 (第二電機株式会社専務取締役)
- 竹中 誉 (日本アイ・ビー・エム株式会社 常務取締役)
- 中嶋 嶺雄 (東京外国語大学教授)
- 齋 和夫 (経済団体連合会常務理事)
- 長谷川 三千子 (埼玉大学教授)



青木 保議長

### 共同討議 I

### 世界への貢献は「責務」

### 日本人に強い「異質論」

論議と企業の論議の板挟みにあっている。 十日ほど前に米アラバマ州で開かれた米英の会議で、元国防長官



竹中 誉氏



齋 和夫氏



光田 明正氏

るのに、人間性の面では、実態以上に悪く言われていると思う。一、三年前にダイヤモンド社が「世界の一人当たりの国民白書」を出した。そのデータを見ると、日本は世界一の長寿国で犯罪発生率は世界一低い。教育水準が高く、国民所得も多い。これは数字で見ると、人類が追い求めてきたパラダイスではないだろうか。なのになぜ日本は袋だたきにあうのか。日本アイ・ビー・エムを例にとって考えてみると、就業時間は毎日午後五時三十分までと決まっている。これは週休二日制に移行した際に、土曜日の三時間の勤務時間を単純に五日に等しく配分した結果なのだが、外部の人からは「さすが外資は分刻みの管理ですね」と言われる。外資は一味違うということにしないと、日本人は納得しない。アメリカにも日本人異質論があるが、それは「異質論」は外国異質論を一番強くもっているのは日本人だと思う。

上、参画するのは当然である。お金を出し、知恵を出し、人を出す。諸外国はみんな出資金に見合った参画をしている。国連と違って、約四十もの専門機関がある。日本は安全保障理事会以外では大国である。イギリス、アメリカの脱退しているユネスコでは最大の出資国である。にもかかわらず、ユネスコにおいても、口を開き口を出してない。国連では「世界から求められているか」という質問に答える必要はない。バルバース 去年オーストラリアのキャンベラで、ソロモン群島の人に、私が日本に住んでいると言った

ですまない時代が始まりつつある。文化や経済で、今後日本はアメリカだけに依存できないという問題が出てくる。そこで我々はあらためてグローバル化という考えをしなければならない。竹中 さきほど貢献に対するビジョンの話が出たが、アメリカ人にとって日本人のビジョンが不明であることは、重要な心理的要素として日米関係の問題の一つとなっている。日本人は自分が見て世界で嫌われているか、野村総合研究所が昨秋EC7カ国

青木 今後二十一世紀にかけて世界にはいろいろな難しい問題が起ってくる。そうした世界情勢の中での日本の立場、果たすべき役割を前向きな姿勢で討議したい。

千本 企業の経営者の観点に立った場合、グローバル化は、抽象的な存在から具体的な意思決定を迫られるレベルになっている。湾岸戦争中に、京セラの国際経営会議が開かれ、全世界から関係会社の社長が参加した。その中で、千本は「グローバル化は、企業にとってのチャンスであり、脅威でもある」と述べた。

中嶋 国内でも日本はこれまで経済が大きくなったから、貢献すべきという声が出てきている。このまま政府が何もなしにやらせたら、国民の間には、ヨナリズム志向が高まるような気がする。しかし世界は、本場に日本に貢献してほしいと思っているのだから、ドイツは西欧に比べて、そのことが東西ドイツの統一に結び付いた。日本はアジアの中で、スイスやドイツがとれているようなイメージがない。つまり「機が熟していない」のである。

光田 私は、日本の側に貢献するための三つのポイントがある。第一は、貢献する余裕があるのかという点。金の面で我々は世界が思っているほど裕福なのか、また貢献するための知的蓄積はあるのか、という疑問がある。第二は、ビジョンの問題。かつては大東亜共栄圏というビジョンがあった。いまの日本人はビジョンを持っていないのか。パレスチナ問題はかくあるべきか、と言える人が何人いるだろうか。第三は、日本を

野戦病院で多国籍軍兵士もイラク軍兵士も手当てした。すくいは、医師のほかに三千人のボランティアが参加し、さらにボランティアが帰国後に元の職場に復帰できるシステムを整えていたことである。それに対して日本は一人の医師も送っていない。スウェーデンは人口もGNPもアラブの石油依存度も日本の十五分の一である。日本

貢献を求める声は低くなるのではないか。 あわせて中嶋さんに質問したい。日本が主体的に第一貢献者として躍り出るのは「機が熟していない」という発言の背景には、将来日本が力の主体になるという懸念があるのだろうか。 高岸危機でわかったのはアメリカには必要なきときは力を使うということである。日本はその転換点を乗り切

### 欠けている貢献の条件 光田

意思決定の仕方に問題 パーソル

### 全面的な参画を 日本人に反論せぬ

吉田 土野

「私の意見はほとんどの日本人は反対しなかった」と言っていたら、ここに日本の対外コミュニケーションの根本的な問題がある。